

次号予告

特集／重複障害

(序文) 重複障害の特集にあたって……………都心障センター 寺山 久美子
視覚障害を伴う患者の指導上の留意点……………神奈川リハセンター 田口 順子・他
聴覚障害を伴う患者の指導上の留意点……………

……………国立聴力言語障害センター 植村 英晴

〈重複障害の経験〉

精薄と切断……………神奈川リハセンター 岡田 しげひこ
ろうを伴う片麻痺者の経験……………都心障センター 勝矢 淳子・他
盲と膝関節離断……………兵庫リハセンター 大峯 三郎
一側大腿切断に片麻痺を伴った

一症例について……………九州労災病院 浅川 京子・他
盲と上肢麻痺……………慶応病院 藤沢しげ子・他

〈随想〉

重度重複障害児と教育……………整肢療護園 小池 文英
点字図書館の紹介……………点字図書館長 本間 一夫

とびら 普通の知識……………大阪大学病院 武富 由雄
講座 住まいと身体障害

3. 家屋改造の実際(1)……………兵庫リハセンター 大峯 三郎
失行・失認 I. 総論と運動失行(1)……………東大病院 上田 敏

編集後記

寒さの厳しい時節、読者の皆様お元気ですか。月日の過つのは早いもので「理学療法士・作業療法士法」が制定されて、十数年になりますが、確固たる治療技術を確くするためには、評価技術の確立なしには考えられません。そこでジャーナル今月号は“評価”を特集に取り上げました。「リハビリテーション医療における評価のあり方」について、嶋田氏に、また誰もが思っているように主観的評価に終始している我々が、より客観的に考えようとする時、まず「正常とは何か」という疑問に出合いますが、この難問に隣接分野で御活躍の飯塚氏に論じて戴き、続いて各論では我々セラピストにポピュラーな、MMT、ROM、ADL 各評価について、中山、宮前、生田、各氏に執筆していただきました。全てについて網羅することは、紙面の制約上手狭ですが、各執筆者諸氏の研究を通して書かれた論文は、核心にせまる問題提起を含め、読者諸兄の参考となり、日頃の疑問解決の糸口に

なると確信します。

今年1月号からの新講座では“障害者のための住居”を連載していますが、この分野はリハビリテーションチームのスタッフの並々ならぬ努力や、他の専門家からの協力が得られるなど、充分とまで行かなくてもある程度の体制と周囲の理解が揃わなければ、リハビリテーション医療の延長として手が廻らない現状ではありますが、着実にリハビリテーション医療に定着しつつあるようです。公共建築から、やがては全ての建築基準に障害者のみならず老人・子供・妊婦などの弱者、ひいては健常者を含めて使い易いようにと、これらの考え方が採り入れられて行くようですが、日本国土の実情からも、時間的にも経済的にも急激な変化は望めません。しかしケースを前にして我々は、まず、さておいて何をすべきか、といった即効的な要求にも応じなければならず、これからどう考えてゆけば良いかという問題解決に、この連載を読み返して大いに利用していただきたいと思ひます。

(大喜多 潤)

〈編集顧問〉

天児民和
九州労災病院長

五味重春
筑波大学心身障害学系教授

砂原茂一
国立療養所東京病名誉院長

津山直一
東京大学教授・整形外科

水野祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

〈編集委員〉

上田敏
東大リハビリ部

荻島秀男
わらび診療所

大喜多潤
兵庫県リハビリセンター

鈴木明子
府中リハビリ専門学校

寺山久美子
都心障センター

奈良勲
有馬温泉病院

福屋靖子
松村 秩

都養育院リハビリ部

〈編集同人〉

大橋博

大丸幸

金子翼

鎌倉矩子

紀伊克昌

駒沢治夫

佐藤章

佐藤馨

嶋田智明

高橋正明

武富由雄

谷岡淳

富岡詔子

中屋久長

藤沢しげ子

松本妙子

丸谷隆明

矢谷令子

山下隆昭

和才嘉昭

(担当 細田・西塚)